

令和5年度 第3回 丸塚中学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年11月30日（木） 13時30分から15時30分まで
- 2 開催場所 丸塚中学校 多目的ルーム
- 3 出席委員 稲垣 邦圓、鈴木 悦子、尾上 弘、名倉 善郎、酒井 里江子、
宮下 まゆみ、鈴木 俊哉、田嶋 節子（学校支援コーディネーター）
- 4 欠席委員 園山 尚俊
- 5 学校 高柳 慎二（校長）、青島 正和（教頭）、中井 浩行（CS担当教員）
石津谷 訓子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 牧野 知子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 石津谷 訓子
- 9 協議事項 学校評価アンケートについて
- 10 会議記録

司会の教頭青島から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。また、第一回運営協議会で承認された尾上副会長が議長をする旨の報告があった。

<学校評価アンケートについて>

教頭から今年度の学校評価アンケート「学習意識調査」「生徒用アンケート」「保護者アンケート」についての説明があり、来年度案について委員からは、以下の発言があった。

- ・ 褒められることで自己肯定感が高まる。（尾上委員）
- ・ アンケート項目は、市内中学校共通なのか？（俊哉委員）
→ 丸塚中学校独自のものである。（青島）
- ・ 学習意識調査は、来年度もそのまま良いと思う。（尾上委員）
- ・ 「苦しいことや困難なことがあっても、決してあきらめないで取り組んでいる。」という質問で「決して」や「困難なこと」という言葉が構えてしまう。それよりもっとハードルを低くして、小さな成功体験を積み重ねることが自己肯定感に繋がると思う。（宮下委員）

- ・ 「取り組んでいる」という表現も「取り組んでいこうとしている」などとしたらどうか。(尾上委員)
- ・ 意識調査なので自分の判断で良いのに、「取り組んでいる」と言い切られると、自分はやっているつもりでも、ここにマルをしていいものかと躊躇してしまう。(田嶋委員)
- ・ 人から見られてどうか、人と比べてどうかではなく、自分が出来ていれば成功ということ、生徒に伝えて欲しい。(宮下委員)
- ・ 「自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれをしたりしていない。」という質問は能動者として見ている。「していない」を「されていない」という被害者側からの立場にすると、意識していないいじめもでてくるかもしれない。「学級や学年の仲間のいいところを見付け、認めようとしている。」という質問も「認められることがある」としても良いかもしれない。(尾上委員)
- ・ 昨年度のアンケート結果では「明日も来なくなる丸塚中」では90%に達しているので、それ以上になるように今後も継続して欲しい。また「あきらめない心を育てる」指導も引き続きお願いしたい。(悦子委員)
- ・ 小学校の参観会で見かけたが、友達の良い所を見つけて書き、教室に掲示されている封筒にいれるという取り組みをしていた。友達から認められると自己肯定感も高まるし、「友達と積極的に関わろうとしている。」「学級や学年の仲間のいいところを見付け、認めようとしている。」という質問にも繋がると思う。(俊哉委員)
- ・ 生徒が自分の困っていることや悩みを親に相談するか？親は見たり、聞いたりしているか？などといった、親子の対話も大切だと思う。(稲垣委員)
 - 生徒用アンケートは学校生活でのことをメインで聞いているので、保護者アンケートで親子の対話の項目を検討してみたい。(青島)
- ・ 学校生活は見えにくいですが、ホームページがすぐにアップされて行事などの感動が伝わってくる。生徒も、道で会ったら挨拶をしてくれたりする。学校の情報発信を引き続き楽しみにしている。(酒井委員)
- ・ 今年度のアンケートについて、特に気になるところはない。(名倉委員)
- ・ 家庭内のコミュニケーションの項目を追加していただけたら良いと思う。(田嶋委員)

以上の協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

○ その他報告事項等

教頭青島から、次回運営協議会は令和6年2月20日(火)に開催予定である旨の報告があった。